



なぎさは海のゆりかご

海のゆりかご通信 No.04 Nov 2009

～ 藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯・浅場… 「なぎさ」は人と海との共生の場 ～

なぎさシリーズ第2弾。今回は、北に桜島、対岸には「さつま富士」で知られる開聞岳を一望する、錦江湾南部に位置する鹿児島県錦江町の活動組織を、鹿児島大学の鳥居さんが訪ねました。

なぎさシリーズ No.2

かごしま“海縁隊”のアマモ復活作戦

“大根占海縁隊”

今回取材した「大根占海縁隊」は、鹿児島県大隅半島の錦江町という小さな町に誕生した組織。藻場の再生活動を展開しており、主に錦江町大根占地区の漁業者、漁協女性部、小学生、遊漁船業者などによって構成される。

「海」に“縁”のある人々が集った組織であることから「大根占海縁隊」（おおねじめかいえんたい）と名付けられた。

大根占海縁隊の目標は、「藻場の再生によって水産資源の回復を図り、それを漁業者が持続的に漁獲することによって、魚介類を家庭の食卓へ安定的に供給すること」。つまり、単に藻場再生を目的するのではなく、藻場再生を通じて魚介類供給の安定化を図ることを目的とした組織なのである。

近年、複数の組織が藻場再生活動を実施しているが、筆者は常々、「水産行政あるいは漁業者団体が支援する藻場再生活動の到達点は食料の安定供給の実現であり、日々の藻場再生活動はあくまでも“手段”である」と考えている。大根占海縁隊は、



雄大な桜島と錦江湾

「海の環境を守ることは、それは我々の食を守ることに繋がる」といった考えを実践する組織であり、水産行政を担う水産庁や地方自治体、JFグループの支援を受けるに相応しい組織であることをまずもって記しておきたい。

	都道府県:	鹿児島県
	地域協議会:	鹿児島県藻場・干潟保全対策協議会
	活動組織名:	大根占海縁隊
	協定先:	錦江町
	構成員数:	159名+5法人
	対象資源:	藻場
活動内容:	計画づくり、モニタリング、アマモの播種、食害生物の除去(ウニ類)、その他(母藻設置、浮遊・堆積物除去予定)	

活動の背景

大根占海縁隊を構成する漁業者は、おおすみ岬漁協大根占支所に所属する。2006年2月、大根占漁協、佐多漁協、佐多岬漁協が合併し「おおすみ岬漁協」となり、組合員数336名、年間漁獲金額約8億円を記録する(2009年3月末現在)。大根占支所では、カンパチ類養殖、延縄、一本釣り、建網、刺網などが行われている。漁船漁業の主な漁獲対象魚は、キバラ(イトヨリ的一种)、イセエビ、マダイ、アマダイなどである。

かつて、大根占地区の沿岸海域には藻場が広がっており、水産資源に恵まれた豊かな海域であった。大根占漁協の前組合長・染川金蔵氏の手記によると、地曳網、手繰網、八田網などによって魚介類が大量に漁獲され、それを処理する加工場がいくつも建ち並んでいたとのことである。しかし、その後、漁獲量減少に見舞われるとともに、沿岸に広がっていた藻場も1970年代初め頃にはほとんど消滅してしまった。現在では藻場は残っておらず、共同漁業権海域の海底の大半が砂地となっている。



名産 カンパチ

天然の魚礁がほとんどないことから、大根占支所の漁業者は廃船を利用した魚礁、間伐材魚礁、イカシバなどの設置に力を注いできた。設置した魚礁にイカなどが来

遊・産卵するといったケースが見られるようになり、魚礁設置の効果を実感するようになった。

こうしたことから、2007年より藻場を再生させる活動に取り組み始めた。アマモの種子などを詰めたマットを2007年は5枚、2008年は24枚、消波ブロック内の静穏海域へ設置した。初年度は残念ながら失敗に終わったが、2008年は設置したマットのみならず周辺でもアマモが見られるようになった。



復活したアマモに産みつけられたアオリイカの卵

こうしたことから、2009年、「大根占海縁隊」を組織して「環境・生態系保全活動支援事業」の支援を受けて活動を継続することとなった。

組織体制と活動内容

大根占海縁隊の目的は先述したように「藻場の再生によって水産資源の回復を図り、それを漁業者が持続的に漁獲することによって、魚介類を家庭の食卓へ安定的に供給すること」であり、2009年から5年にわたって「環境・生態系保全活動支援事業」の支援を受ける。将来的には造成した藻場に、イカ、ヒラメ、イセエビ、サヨリ、マダイなどが来遊して産卵するものと期待している。

大根占海縁隊の構成員は、漁業者、漁協

女性部、遊漁船業者、活動を支援するサポーターとして小学生、錦江町役場職員などが加わっている。小学生については、藻場と食のつながりを理解させたいとの思いから、教育委員会を通じて参加を呼びかけたところ、5年生が海の体験の一環として参加することとなった。遊漁船業者については、漁協が参加を呼びかけた。当地区では錦江町遊漁船協会が組織されており、普段より漁協との意思疎通が図られてきた。同じ海の利用者として資源育成への取り組みに協力して欲しいと呼びかけた結果、協会のメンバーのうち大根占地区に住所を有する遊漁船所有者が参加することとなった。



アマモの種

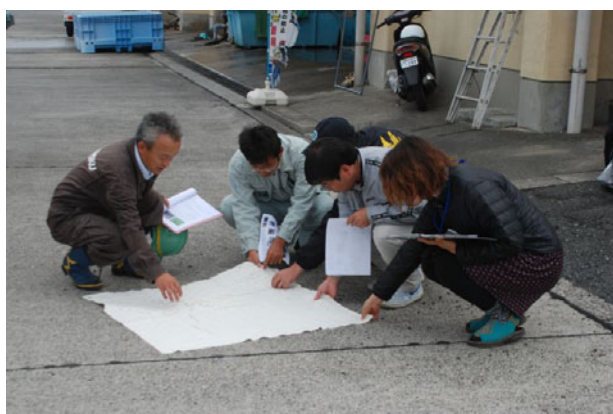
大根占海縁隊の主な活動は、①藻場造成の計画づくり、②普及啓発、③保全活動（アマモの移植・播種、ウニ等の食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去、ホンダワラ等の母藻の設置）、④モニタリング、である。藻場造成活動だけではなく普及啓発にも力を注いでおり、小学5年生を対象に、アマモの種の選別、観察会などを開催する。藻場は魚の産卵場、稚魚育成の場であるとともに、藻場で育った魚は沖合へ移動し、その魚を漁業者が漁獲することによって、それぞれの家庭の食卓に届くという流れを理解させたいとしている。

2009 年は、計画づくり、アマモの移

植・播種、普及啓発が活動の中心を占める。8月に漁協青壮年部と小学生がアマモの種を選別し、11月6日にアマモの種を詰めたマットを21枚設置した。今後は、消波ブロックに生息するウニ類を除去して、ホンダワラ類を移植する活動を予定している。

活動の様子

では、11月6日に行われた藻場造成活動を見てみよう。



作業前に入念な打合せ

午前中は、法面の緑化技術を持つ企業の従業員によって播種マット（90cm 四方）の作成が行われた。1枚のマットにつき、アマモの種 400～500 粒、砂、肥料、固着材等が充填される。なお、マットへ注入する砂や肥料、糊の配合等の特殊技術が必要であるため、委託業者によって作成された。



完成したアマモマット

マットの作成方法は次の通りである。ま

ず、砂、底質改良材、海水を攪拌して「泥水」をつくる。ついで、この「泥水」に肥料、固着材を入れて「泥水」に粘性を持たせる。これにアマモの種子を入れて攪拌する。そしてマットにこの「泥水」を入れると完成となる。



アマモマットの入ったカゴ

午後からは作成したマットを海底へ設置する作業が、大根占海縁隊のメンバーとサポーターによって行われた。この日は漁業者3名、漁協青壮年部1名、県振興局職員2名、町役場職員1名、地元への研修生1名の計8名による作業であった。

消波ブロック内の静音海域へ播種マット21枚を杭等で固定、マット設置海域であることを知らせるプラスチック製のフロートをつけて作業は終了した。潜水作業を担当する漁業者は魚類養殖を行っており、普段から潜水作業を行っていることから、作業はスムーズに運び、1時間足らずで作業は完了した。



カナヅチとペグで、マットを海底に固定

活動に参加した漁業者のひとりには「アマモが昔あったかどうか、私の記憶にはない。でも、3年前からアマモの活動に参加しているが、昨年からアマモが少しずつ見られるようになり、うれしい。小さい規模ではあるけれど、少しずつでもよいからアマモが広がり、そして魚が集まり、また海の環境が良くなればと思う。」と語った。

今後の発展に期待

「大根占海縁隊」の取り組みはまだ始まったばかりであり、その成果を論ずるのは少々気が早い。今後の活動を通じて藻場がどこまで広がるのか、藻場造成によって漁獲量がどう変化するのか、そして海の環境と食のつながりへの理解をどこまで広げられるのか。今後の発展に期待するとともに、こうした観点から取り組みを注目し続けたい。



この日参加した“海縁隊”隊員

～著者プロフィール～

鳥居享司（とりいたかし）氏

鹿児島 水産学部 准教授

水産学博士。



1973年、愛知県生まれ。広島大学大学院卒。06年より現職。漁業生産への資本参入による生産地への影響分析、漁村の地域資源を活用した漁業・漁村活性化戦略などに関心を抱く。

ひとこと「日本人は米と魚！」

家庭での食事は、鹿児島県産品を中心に自給率ほぼ100%。



技術をみがき・学ぶ「ヨシ帯技術講習会」の開催

ヨシ帯で実施する保全活動の進め方や技術をみがき・学ぶための講習会を滋賀県近江八幡市にて12月10日～11日に実施します。

ご応募お待ちしております！！

- 開催地：滋賀県近江八幡市 西の湖ほか
- 開催日：12月10日～11日
- 詳細情報は！
JF全漁連ホームページ
「環境生態系保全活動サポート窓口」サイトへ
- 問い合わせ
JF全漁連漁政部
環境生態系保全活動サポート窓口
Tel: 03(3294)9616 Fax: 03(3294)3347
e-mail: k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp

「藻場・干潟・珊瑚礁・ヨシ原保全」情報交換サイトの更新情報

環境・生態系保全対策についての情報交換サイトを、随時、更新作業を進めながら、開設しています。

■更新情報

・「地域協議会情報」のアップ

情報を提供していただいた協議会の紹介を行っています。

・「あなたの町の保全活動」のアップ

情報を提供していただいた活動組織の紹介を行っています。

・会員制「会議室」を近日公開

地域協議会や活動組織、また保全対策に係わる方々が情報の交換を行うための「会議室（掲示板）」を近日公開します。入室には、ユーザーID、パスワードが必要になります。近日中に案内します！



「ひとつみ.jp」

<http://hitoumi.jp>

問い合わせ

JF全漁連漁政部
環境生態系チーム
連絡先は上記「技術講習会の開催」を参照。

地域協議会情報・活動組織情報を提供していただければ、無償で本サイトにて紹介します！お待ちしております！

～ 編集後記 ～

このたび訪れた錦江町は、平成17年、旧大根占町と旧田代町が合併して出来た新しい町。大根占地区は錦江湾に面し、漁業・養殖業が盛んな町。一方、田代地区は内陸に位置し、海に面していない。しかし、このたびの合併で、田代地区の住民にとっては、「わが町に海がやってきた！」。

“わが町の海を知ろう”、ということで、地元教育関係者は、子供たちを大根占の海で体験させたり、魚のさばき方教室を開催するなどの地元交流が生まれた。交流のリーダーとなって取り組んだ海縁隊の染川隊長は、「これまで魚を触るところか、見るのも嫌だった児童がいた。その子が自分で魚をさばき、体験したことで、大の魚ファンに生まれ変わった。」と目を細めていた。今では、その児童もアマモの種採り作業など、藻場再生に一役買っている。新しく生まれた“海の縁”。老若男女をまきこんで、染川隊長はじめ隊員達の活躍は続いていく。

(田)

